

# 平成18年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	フリーター、ニートにしないための保護者指導を含めた職業観・人生設計に向けた人材育成(教育プログラム開発)について		
法人名	学校法人 大岡学園		
学校名	国際情報専門専修学校大岡学園		
代表者	理事長 大岡 豊	担当者 連絡先	瀧下尚子 TEL0796-22-3786

## 1. 事業の概要

フリーター・ニートの実態を把握し、企業や社会が求める人材像を改めて検証し、職業教育やその根本となる職業観の育成は如何に図られるべきであるかを調査・研究するものとして事業を推進した。高等専修学校としての取り組める教育プログラムの開発や地域での教育推進に向けたシステム構築・仕組み作りを研究し、実践に努めた。

また、最近の傾向として、保護者の意識の変化が著しく、生徒の育成に影響を与えているものと推測される。これは、小学校、中学校での教育、保護者への指導にも課題があるようにも思われ、実態把握がなされていない現状にある。そこで、教育関係者はもとより、保護者がいかなる対応をしているのか、また、どのような取り組み方をすべきであるのかを検討し、指導指針となるべきプログラム構築に取り組んだ。

低年齢層からの職業観育成に関しての現状を把握すると共に保護者の意識を探り、最初に、小・中学校における「職業観」教育の実態を把握し、保護者の関与、指導面にも重点を置いた調査・研究を行い、前提となるべきデータをまとめる。その経過・結果として、生徒(本校、地元中学校・高校)がどのような「職業観」を持っているのかをまとめ、基本資料とした。

一方、企業や社会が求める人材、「職業観」を取りまとめ、例えば、社内教育、社外教育としての重要性を再度見つめ直すと共に、適職とのミスマッチを出来るだけ取り除くようなプログラムを研究する。また、「人材育成研究会」(仮称)など、地域企業等の有識者、熱意ある経営者層の組織化の可能性などを探り、今後の課題として取り組みたい。

このような研究を踏まえて、職業観の育成、職業教育プログラムを構築し、それに必要な教材(製本冊子及びDVD等)などを製作した。

## 2. 事業の評価に関する項目

### ①目的・重点事項の達成状況

小学校、中学校段階における、職業観に関する教育の実態把握に努め、教材開発に取り組んだ。アンケートに関しては、地元教育委員会、各学校の協力を得られ、回収率も高かったが、内容、分析については、もう少し精査する必要があったかもしれない。データとしては大変興味深いものになった。視察に関しては、高等専修学校間の相互理解、勉強になった。テキストに関しては、生徒にわかりやすいものを考え、相当精査し、イラスト、ビデオ等を活用したものとなったが、DVD、CDに関しては、もう少し検討が必要であるように思われる。

### ②事業により得られた成果

小学校、中学校の児童、生徒、保護者及び学校に対して、職業観に関する調査、アンケートを実施した。親子間における会話、将来展望等教務深い内容となっている一方で、職業に関する意識については、残念ながら十分なコミュニケーションがなされていない実態が浮かび上がったように思われる。これらのアンケート、分析に基づき、「職業観」に関するテキストを作成した。生徒に出切るだけ受け入れやすい内容を構築するために、十分に精査し、受容しやすいテキストになったように思われる。DVD等に関しては、現状理解、パソコン活用にとどまるものとなっているが、地方の学校にとっては、情報量が少ない傾向にあることから、有用なものとなった。

### ③今後の活用

「職業観」テキスト、DVD、CD等を活用して、本校の授業に取り入れていきたい。また、中学校、高校に関しては、今回のテキストの活用方法などに関して、新年度講習会を行い、啓発していきたい。アンケート調査、分析、報告に関しては、多くの方からの協力を得て作成したことから、回答者(生徒・保護者)等へ配布し、現状の理解を深め、今後の展開に関して、活用していきたい。

#### ④次年度以降における課題・展開

「職業観」テキストに関しては、コンパクトにまとめ、有効に活用していきたいが、解説書、ポイント、活用書を作成する必要があるように思われる。また今回のテキストは約30時間の授業時数を予定しているが、自己分析やコミュニケーション能力の育成など、専門性を一層高める必要があるように思われる。アンケート調査に関しては非常に興味深いデータができたが、内容を一層精査して、職業観育成に関して、親子で必要なコミュニケーション、基礎となるテキストなどを作成する必要があるように思われる。

### 3. 事業の実施に関する項目

#### ①ニーズ調査等

(調査のねらい、対象、方法、調査項目、調査結果及び分析の内容)

対象:小学6年生、中学3年生、小学校、中学校

方法:アンケート調査

調査項目・結果・分析の内容:別紙冊子参照

#### ②カリキュラムの開発

現在、社会問題となっているニート、フリーターに関して、実態把握に努め、職業に関する意識を高めて、仕事の意義、大切さを理解させるための教材作成を目指したが、中学校段階までを考えると残念ながら、大学等への受験に関する学習が重きを成しており、将来の職業に関する意識啓発、基本からの取り組みが必要であることを認識し、これらを念頭にテキスト作成、カリキュラム開発に取り組んだ。

#### ③実証講座

「職業観」テキストを作成段階において、本校3年生を対象に、自己分析などに関して、授業を行い、初めての取り組みで、戸惑いも感じられたが、教務、関心は非常に示していた。また、報告会で、地元の中学校長等から、調査分析に関しては、非常に参考になるものであり、テキストに関しても、中学校段階でも一部取り入れられるのではないかと意見を頂いた。

#### ④その他

今回の研究事業でもっとも大切な事柄としては、高等専修学校入学までの職業に関する学習の実態把握と、保護者の意識調査であったように思う。これに関しては非常に多くの協力を得て、非常に感謝している。また、テキストに関しては、今回わかりやすいものを追究して作成したが、DVD、CD等を一層活用しても良かったように思われ、今後の課題である。